

ねがいのいえニュース 第75号

社会福祉法人ねがいの杜 広報紙・2025年11月15日発行

発行責任者：藤本真二 〒331-0046 さいたま市西区宮前町812-2

Tel (048) 626-1909 Fax (048) 626-1920

E-mail info@negainoie.ne.jp Hp <http://www.negainoie.com>



長かった暑い夏があつという間に過ぎ、冬の気配さえ感じる気温の変化に体調も崩しがちですが、みなさまお元気でしょうか？

2軒の生活介護にプールができました

6月から7月にかけてクラウドファンディングを実施し、プール造設にご協力いただきました。60万円が集まり、おかげさまで8月にハナミズキのプールが、9月にやじろべえのプールが完成しました。重度障害のみなさまの歓声と笑顔が私たちの喜びであり、支援のエネルギーです。みなさま、ご協力ありがとうございました。



重度障害のお子さまの自立を祝う会

前回お知らせした通り、ねがいの杜は6軒目のグループホームが10月にオープンし、みなさまに約束してきた50人の居室をついに完成しました。そして11月7日に入居者のご家族をお招きし、「重度障害のお子さまの自立を祝う会」を開催しました。利用者のご家族と支援スタッフ、ゲストには前国会議員、市議会議員、そして他団体の事業者のみなさま、総勢120名にご参加いただき、盛大な会となりました。以下に、当日の理事長あいさつを原文のまま掲載いたします。

理事長あいさつ

本日は、多くの方にご出席いただきましてありがとうございます。NPO法人ねがいのいえは2003年にスタートし、24時間、年中無休でみなさまの生活支援を続けてまいりました。当時、障害のある方を支援する施設、事業所は希少な時代でしたが、あれから22年が経ち、今や放課後デイや就労支援などが乱立する時代となりました。しかし、強度行動障害と呼ばれる方や医療的ケアが必要な方など、重度障害の方がいつでも利用できるショートステイやグループホームは今も不足し、日本全国で、ご家族は苦しい暮らしを強いられています。

そんな中、ねがいのいえは、みなさまの生涯を支えることを約束し、50人のグループホームを実

現すると宣言して、整備を進めてまいりました。

ここで少し自分の経歴を挟ませていただきますが、もともと自分は、福祉の学校で勉強した身ではなく、学生時代にボランティアグループに参加して、障害のある子どもたちと遊んだり、海や山へキャンプに行くという活動をしていました。しかしそこで出会ったかわいい子どもたちが、家ではご家族に大変な苦勞をかけていることを知りました。そしてご家族が倒れると、その次の日にはどこか遠くの施設へ行ってしまうという現実を目の当たりにし、たくさんの悲しみを体験しました。ご家族が助けて欲しい時にすぐ助けることができる、そして、ご家族が介護できなくなっても遠くに行かなくていい社会になって欲しいと願い、福祉の世界に進みました。

大学を卒業してすぐの頃、東京都の育成会が初めて開設した、団地の一室で始めたグループホームを見学し、いつか自分にもこんなことができるだろうかと思い続けて、今日に至りました。そして今年10月に法人6軒目のホームがオープンして50人の居室が整い、みなさまと約束した目標を達成することができました。

重度障害のお子様を育てるということがどんなに大変か、みなさまがどれだけの苦勞をしてこられたか、伴走支援してきた私たちはよく知っています。その苦難を乗り越えて大切に育てられてきたからこそ、ねがいの杜のグループホームで、穏やかに暮らされている今があります。今日は、そのみなさまの勞をねぎらい、お子様の自立を、ささやかですが、お祝いさせていただきたいと思い、この会を主催しました。みなさま、お子様の自立、おめでとうございます。

前参議院議員・山本博司様よりごあいさつ

続いて、ゲストの前参議院議員・山本博司様よりごあいさつをいただきました。山本様は2007年の初当選以来、3期18年の任期中に、子育て支援策の拡充や障害福祉制度の策定等に関われ、議員を引退された今も、医療的ケア児の施策づくり等に尽力されている現在の活動について語っていただきました。



利用者ご家族よりスピーチ

続いて3名の利用者のご家族からスピーチをいただきました。20年前どこにも預けることができなかったが、ねがいのいえと出会って家族が支えられてきたことへの謝辞を、また、お子様が入居できた今、家族のみなさまもまた自分を大切に生きて欲しいという言葉が語られました。

ゲストからスピーチ

最後にゲストスピーチをいただいた松本伸子様は、今から 40 年前、福祉の制度がなかった時代に、日本で初めて 24 時間年中無休のレスパイトサービスを東京都豊島区で始められたゆきわりそうの現代表です。当時、自分もボランティアとしてお手伝いに通い、その後常勤スタッフとして勤め、修業させていただきました。ねがいの杜の 24 時間年中無休の支援は、ゆきわりそうで 30 年以上前に経験したものです。創始者の姥山寛代代表は生涯の師と仰ぐ方で、その後継者である松本様には、当時現場の先輩としてご指導いただきました。松本様からは、障害者を支援する制度がなかった当時、町の人の差別的態度も多かった思い出が語られましたが、ゆきわりそうの風土とも言える明るく笑いで会場を盛り上げていただきました。

もうひとり、スピーチをいただいた諏訪方宣(まさのぶ)様は、自分が大学 4 年生の時に、身体障害の子どもたちと出会い立ち上げたグループに、ボランティアとして参加してきました。そのキャラクターでたちまちみんなの人気者になった諏訪さんは、その後、地元松江の社会福祉協議会に勤務されました。以来 40 年、福祉のこと、自分の生き方など、互いの想いを語り合ってきました。

そして自分は長年の目標を達成しこの会を迎えましたが、諏訪さんは現在、全国社会福祉協議会の要職として、全国の地域福祉推進を導くポストについています。40 年、語り合い、ともに同じ道を歩き続けてきた親友からは、

「僕たちはあの頃、楽しいだけで集まっていた。あの頃過ごした時があったから今の僕がある。だけど藤本さんは違った。僕たちとは違うものを見ていた。それは今日のこの景色を見ていたんだね」と語ってくれました。そして、ある日の理事長ブログを読み上げ、中島みゆきの「誕生」に出てくる一節を紹介し、「みなさま、生まれてきてくれてありがとう」「そして藤本さん、生まれてきてくれてありがとう」と伝えてくれました。



理事長より閉会のあいさつ

ねがいのいえは華やかなイベントをほとんどしたことがない法人でしたが、本日のこの、みなさまを祝う会を行うのは、自分の長年の夢でした。みなさまには、自分の夢におつき合いいただき、感謝申し上げます。

そして自分の夢は、ねがいの杜の 50 人だけが支えられることではありません。全国には、苦しい暮らしを余儀なくされている障害者家族が数えきれないほどいらっしゃいます。障害の子が生まれたその日から、日々の苦労、将来への不安を絶え間なく抱えて暮らされる障害者家族のみなさまが、出会った支援者に支えてもらえる、日々の苦労と将来への不安がない暮らしを送ることがで

きる、それが自分の願いです。ねがいの杜と同じように、全ての事業者が、出会った利用者を生涯支えることを実現してくれる社会、それが自分の願いです。

今日はそのような姿を見ていただきたくて、国会議員、市議会議員、同業の事業者のみなさまをお招きしました。みなさまと一緒に力を合わせて、そんな社会を目指していけることを願っております。本日は、ご来場いただき、ありがとうございました。



出会った支援者がやるしかない

今もねがいの杜には全国から、困り果てている障害者家族のみなさまから多くの問い合わせが届きます。行動障害がありどこの施設でも受け入れてもらえない、入所してみたが結局出ていくことになった、看護師がいなくて医療的ケアはできない、など、どの方の訴えもみな切実で、その悲しみは痛いほど理解しています。

しかし、ねがいの杜が世界の全てを救うことはできません。また、全国から受け入れを実施すれば、家族と離れて遠くの施設へ送られた昭和の福祉を繰り返すことになります。ねがいの杜の願いは、誰もが生まれ育った町で安心して心豊かに暮らせる社会になることです。

では、通所ですら断られる対応の難しい重度障害の方たちの、夜間支援だけをやりますよ、という事業者が、果たして、どこからか急に現れるでしょうか？そんなことはまずありえないと思います。それは、今まで出会ってきた支援者がやるしかない、それが唯一の答えだと思っています。

児童発達支援や放課後デイで出会った利用者の成長に沿い、卒業したら生活介護を開きましよう。週末はヘルパーで過ごし、夜間はショートステイで支えましよう。そして家族と暮らすのが困難な人が現れたらグループホームを始めましよう。全てねがいの杜が 22 年の間におこなってきた実践です。重度障害の支援は確かに難しいけれど、よく知っている人ならできる、それを全ての事業者が取り組めばいいだけの事です。

事業者のみなさまの支援をします

2018 年からセキスイハウスとの協働で新築整備を始め、10 軒の施設を建設したこの 8 年間、人生のピークと言えるほど多忙を極めましたが、計画していた整備が全て完了した今、現場は各拠点の責任者に任せることができ、理事長職としてはほぼ引退状態に入りました。

今後は、事業者のみなさまが出会った利用者を生涯支えられるよう、支援者の支援をして参りたいと思っています。強度行動障害の支援に困っている事業者、人材育成に悩む管理者、そして、難しい方を受け入れることによる収支悪化を懸念する経営者、みなさまが本当に困っている方たちを支えようと思ったださるのなら、全国どこへでも、その支援にうかがおうと思います。

日本全国、すべての障害者家族が 24 時間支えられ、出会った支援者に生涯守ってもらえる、そんな安心な社会になるよう、共感していただける事業者のみなさま、そのためのサポートを必要と感じているみなさま、ぜひご連絡ください。